

「ライトノベル部門」のぶっちゃけた話

皆様は、このホームページや作品募集要項を読んで、「ライトノベル部門」にどのような印象を持たれましたか？

「賞金が安い」「入賞してもプロにはなれない」

「応募料 1000 円も取るのか!？」（※高校生以下は無料です）

・・・だいたい、こんなところではないでしょうか。

しかし、岐阜県文芸祭ライトノベル部門には、他では見られない以下の特典があるのです。

『白鳥士郎審査員による感想シート（仮称）の送付』

（注：必ずしも全ての応募者に送るわけではありません）

このライトノベル部門では、既存の新人賞のような「一次審査」などの「ふるい落とし」は行いません。最初から白鳥審査員が、全応募作品の選考を行います。よって「感想シート」は、必ず白鳥審査員が作成した物となります。

上位入賞者でもない一応募者の作品に、白鳥審査員のような第一線で活躍する作家から直接感想をもらえるチャンスは、なかなかありません。プロ作家を目指す方、またはそうでない方にも、今後の創作への大きな刺激になるのではないのでしょうか。

しかも、白鳥審査員の意向により「できる限り多くの作品に」感想シートを送る方針となっています。これは入賞する・しないに関係なく「応募者数が少なければ全員に」「応募者数が多ければ、白鳥審査員の可能な範囲で」ということです。「すべての応募者に」と言えないのが残念ですが、逆にそれは、ゴーストライターを一切使わない、ということの証明とも言えます。

自分の作品に白鳥審査員からどのような感想を返してもらえるのか、興味のある方は是非ご応募ください。